

第4回 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の  
予防・早期発見に関する検討会

日 時：平成22年8月6日（金）  
13：00～15：00

場 所：厚生労働省6階 共用第8会議室

議 事 次 第

議 題

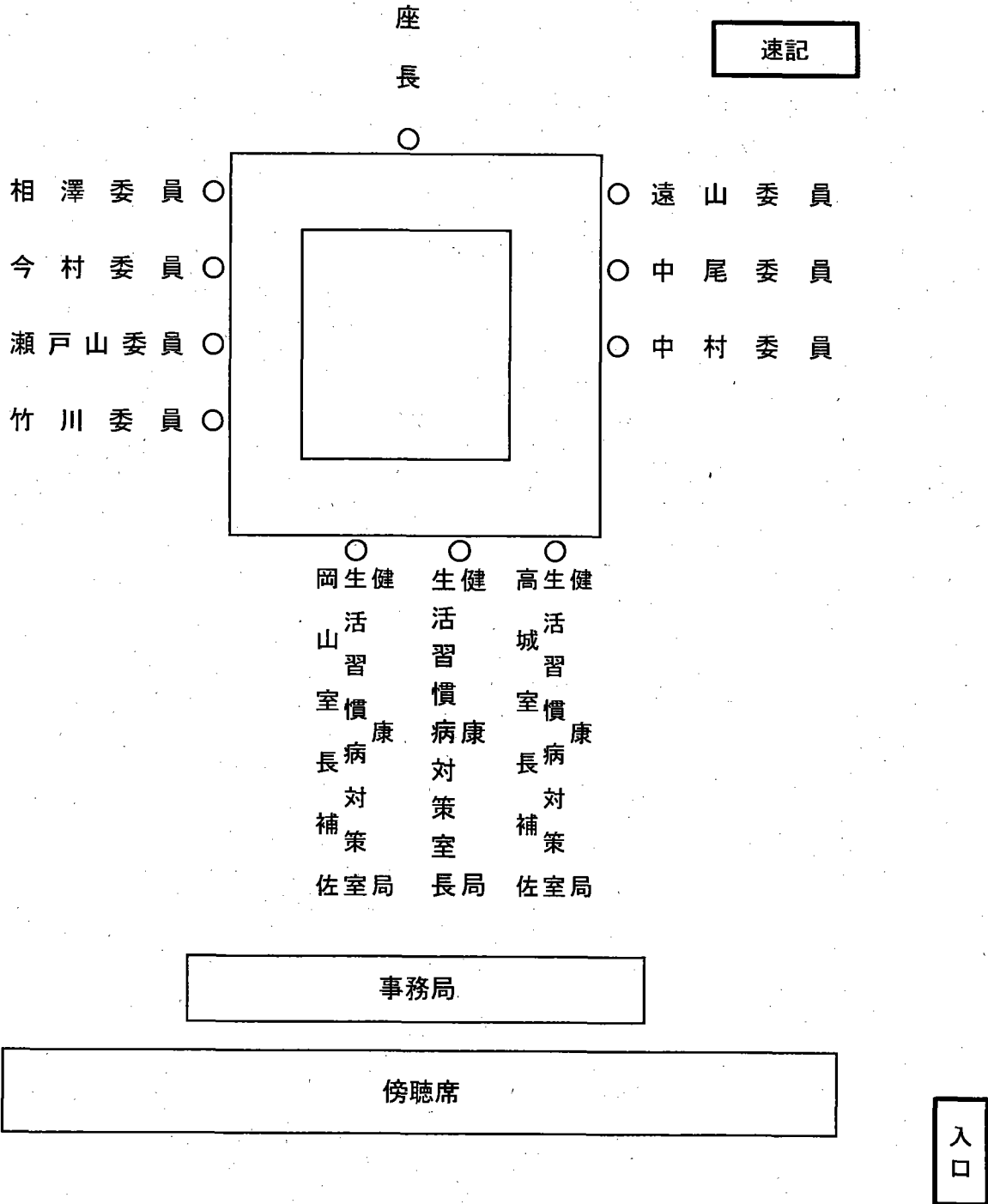
1. 第1回から第3回の慢性閉塞性肺疾患（COPD）の  
予防・早期発見に関する検討会の論点整理について
2. その他

配付資料一覧

- 資料1 第3回慢性閉塞性肺疾患（COPD）の予防・早期発見に関する  
検討会の議事概要
- 資料2 第1回から第3回の慢性閉塞性肺疾患（COPD）の予防・早期発見に  
関する検討会の論点整理

第4回慢性閉塞性疾患(COPD)の予防・早期発見に関する検討会  
座席表

平成22年8月6日 11:30~15:00  
厚生労働省6階共用第8会議室



### 第3回慢性閉塞性肺疾患（COPD）の予防・早期発見に関する検討会の議事概要

#### 1. 健診の場を活用した禁煙支援について

- ・様々な健診の場で喫煙している者に対して、禁煙指導するのは、比較的实施しやすいのではないかと。
- ・喫煙状況を問診票で事前に把握し、短時間のアドバイスをを行い、禁煙治療に誘導していくことが、健診の場面で実行可能性が高い。
- ・禁煙指導の効果により、禁煙率が高くなることが、確かめられている。
- ・禁煙の取組を行うことにより、禁煙の治療費はかかるが、保健指導の削減、医療費の削減効果が期待できるため、将来的には、保険者としては黒字になる。
- ・特定健診、特定保健指導においても、喫煙者については、本来目的としている体重減少、内臓脂肪減量の効果が出にくくなる。

#### 2. COPDの普及・啓発について

- ・「COPD」という概念を広く普及させるには、ポイントが5つある。  
第1に、ネーミング、第2に疾患の特徴に関する情報の整理、第3にターゲット、第4に広報全体のプランニング、第5に啓発における賛同者の獲得。
- ・「COPD」は人事、他人事だが、「肺年齢」だと自分事になるので、たばこを吸っていようといまいと、自分の肺年齢はだいたいどのくらいなのか気になるので、広く訴える用語としては良いのではないかと。

## 第1回から第3回の慢性閉塞性肺疾患（COPD） の予防・早期発見に関する検討会の論点整理

### 【1. 早期発見の手順について】

○ かかりつけ医や健診においてCOPDの疑いのある者を早期に発見し、専門医による精査の後、患者の様態レベルに応じた適切な治療を行うという一連の流れを作ることが現実的な方法であるが、その場合の手順はいかにあるべきか。

(1) COPDの疑いのある者の早期発見には、IPAGの問診票やハイ・チェッカーの利用が考えられるが、それぞれ単独の活用で良いのか、それとも両者の組み合わせが必要であるのか。

- 例) ① 問診票 →スパイロメーター（専門機関）  
② ハイ・チェッカー →スパイロメーター（専門機関）  
③ 問診票 →ハイ・チェッカー →スパイロメーター（専門機関）

(2) 問診票において、喫煙者であることが判明し、かつ問診票のスコアが少ない者については、その後の検査を行わず、禁煙支援を行うのみでもよいか。

(3) 問診票やハイ・チェッカーを用いたスクリーニングは、何歳ぐらいから何歳ぐらいまでの対象者に活用したらよいか。

(4) 健診機関と専門医療機関あるいは一般診療所との連携方策については、具体的にどのような形で行うのがよいか。

(参考)

IPAGの問診票の内容について、どのような項目にすべきか、また、項目の中身、配点の度合いについてどのような修正を加えるべきか別途検討。

【Ⅱ. 予防について】

○ 健診等においてCOPDの疑いがある者を、どのような方策で疾病予防・健康増進の方向に向けていくことがよいのか。

○ 健診等において、COPDの疑いがある者に対し、その場で禁煙指導を行うことができるかどうか。

【Ⅲ. 啓発について】

○ COPDという言葉は、現在、多くの人々に認知されていないが、この言葉を今後さらに多くの人々に広めて行くためにはどのような効果的な啓発・広報方法があるのか。

(1) COPDは症状に気づきにくいなどの特徴があるが、このような特徴を有する疾患については、どのような啓発方策が効果的であるのか。

(2) 啓発のターゲットを絞る場合、対象を誰に絞るべきか。